

令和 7 年度第一回橿原市環境審議会議事録

会 議 名	令和 7 年度第一回橿原市環境審議会
開催日時	令和 7 年 11 月 26 日（水） 午前 10 時～ 11 時 30 分
開催場所	クリーンセンターかしはら 3 階研修室
出席委員	楨村委員、竹中委員、中村委員、若宮委員、奥野委員、小川委員、 谷委員、伊藤委員
欠席委員	なし
事 務 局	環 境 部：高橋部長、上島副部長、瀬尾副部長 環境政策課：西村課長、安藤課長補佐、梶井統括調整員、 中本主査、寺西主査 環境施設課：吉川課長 収集業務課：土田課長 資源循環課：瀬尾副部長（課長兼務）
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 副市長挨拶 3. 委員紹介 4. 会長・副会長選出 5. 議事 <ul style="list-style-type: none"> ・ 橿原市の環境の現況について 6. 確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回審議会の開催日程について 7. 閉会 (配布資料) <p>令和 7 年度第一回環境審議会次第</p> <p>【資料 1】 橿原市環境審議会委員名簿</p> <p>【資料 2】 橿原市環境審議会に係る関係法令</p> <p>【資料 3】 橿原市の環境の現況について</p>
会議の公開/非公開	公開
傍聴	0 人
担当部署 (事務局)	環境部 環境政策課 〒634-8586 奈良県橿原市八木町 1-1-18 TEL：0744-47-3511 ／ FAX：0744-24-9716 E-mail： kankyoseisaku@city.kashihara.nara.jp

次第１：開会

次第２：副市長挨拶

副市長より、開会にあたっての挨拶。

次第３：委員紹介

資料１の委員名簿の順に委員を紹介。その後、事務局職員を紹介。

次第４：会長及び副課長選出

「樫原市環境審議会規則」第３条第２項の規定に基づき、会長に榎村委員を、副会長に竹中委員を選出。

次第５：議事

・樫原市の環境の現況について

資料３を用いて事務局から説明。

＜以下、本議題における質疑内容＞

（委員）

大気の公害について令和３年から令和４年にかけて急激に減っているのは何か対策等をされたのか。

（事務局）

令和３年の２３件から令和４年は５件に減っていますが、特に市で対策をしたということではありません。この内容の内訳はほとんどが野焼きです。農業等で行われる野焼きは廃掃法上では例外になりますが、都度現場へ確認をしに行き、可能であれば焼却施設で処理をしていただきたいというお願いをしていることが、成果につながっていると考えています。

（委員）

我々が幼少期の頃から考えると、公害問題が減っている感じがある。啓発してきたことであるとか、技術開発とかインフラ整備等も含めて、社会的な動きが非常に大きかったかなと思う。次世代に地球温暖化対策として、こういう会議も含めて、電気自動車等の温室効果ガスを排出しない交通手段であるとか、バイオマスを含めた太陽光などの自然エネルギーとか、高気密・高断熱であるとか、環境教育とかを、今取り組まないといけない状況なのかと感じた。地球温暖化防止活動の実行計画として具体的にどう進めていかなければならないか、今後の課題と思った。

(委員)

色んな取組を多方面でやっていく必要があるが、学校での環境教育としてはどのようなことをやっているのか、した方が良いのか意見があれば教えてほしい。

(委員)

小学5年生で公害問題が教科書に出てくる。リサイクルの話は学習活動の中で位置づけて行っている。クリーンセンターからパッカー車が来て、収集している人の話を聞くことを以前はしていたが、最近は色んな教育内容が入ってきて、時間的余裕が無くなってきている。また晩成小学校 PTA で集団回収をしていた時は、年2回校区を巡って市から報償金が出ていたが、近年は回収量が徐々に減っていった、PTA 活動としても収入にならない雰囲気になっている。

ただ、晩成小学校 PTA と NPO 法人が協力して、晩成小学校校区の合同清掃活動をお子たちも含めてしている。

自分が住んでいるところをきれいにしていくという意識は、教育活動の中で位置づけて、今後もやっていきたいと考えている。

(委員)

中学校で教えないといけない部分が増えてきたので、環境に対して中々時間が取れない。また中学校では3年経てば受験という形になる。

ボランティア活動としては、試験の最終日に部活動の生徒等で地域の清掃活動を行おうという動きが各学校にある。ただ、部活動の生徒だけだと半分ぐらいの参加になるので、それ以外の生徒には広がりにくい。土日は地域移行により新しい活動になるので、平日に何とか時間を確保する必要がある。学校協議会が今年度からスタートしていて、地域の色々な方に来ていただいて、生徒会の活動ともマッチして土日を含めてやっていきたいと考えている。

ごみ量が減ってきているという話があったが、何かをやったから減少したというのが見えにくいので、学校の中では分別収集したから減ったとか、子供達の活動が減少につながったことが、直接見えたら一番良いと考える。

学校も子供達は分別を頑張っていて、ごみも少なくなっており、古紙回収も業者が入っている。学校でできることはこれぐらいかなと思っている。

(委員)

何かをしたから減ったということは市の方ではあるか。

(事務局)

具体的な分析は行っていません。ただし市では4Rとして、まずごみになる物を受け取らない、例えば店頭でのレジ袋や過剰包装を断ることを推奨しています。次にリデュース、リユース、リサイクルをいろんな機会啓発することによって、減量化がいくらか進んでき

ているのではないかと考えています。

ごみを発生させない生活様式が一定程度浸透してきたことによって、1人1日当たりのごみ量も減ってきています。当然人口も減ってきているので、樫原市全域のごみの総量として減っていくのは当たり前ですが、それを人口割してもなお前年より7グラム減っているということは、先ほど申し上げた4Rが生活に入り込んできているからだと認識しています。

(事務局)

リサイクル率の推移が右肩下がりになっていることについて、例えば新聞だとデジタル版にされて、古紙として回収されることもないし、大きな看板を据えて国道端で古紙回収しているような民間事業者もいて、これが統計には入ってこない形となっていますので、リサイクル率が低下していることが全面的に問題かという、そうでもないと思っています。またCO₂の話がありましたが、エネルギー消費量を減らしているのにも関わらず、火力電力のkWあたりのCO₂排出係数が上がっているために、令和5年度から令和6年度でCO₂排出量も上がっています。当然、樫原市が努力してどうこう出来る問題ではないので、CO₂を排出しないような電源にさせていただくよりないという問題です。消費電力を下げる行為は一定程度市民にもお願いし、市の職員にも事業として進めていってもらっています。データとして実際に把握しているので、コントロール出来ること、出来ないことを分けて対策をとっていききたいと思います。

価値観はしっかり啓発等によって高めてもらっていこうと思っていますが、根本的に地球温暖化対策について問題解決しようと思うと、産業界が革命を起こして、CO₂を排出することが不可能なエネルギーを入手しないと難しいと思っています。

(委員)

大規模なショッピングセンターが多いので、市外から利用に来られる方が非常に多いということだったが、何か根拠はあるのか。

また小学校の環境教育について、地球の気候変動があつて子供の頃にいた虫が現在では殆ど見られなくなっている。例えば、夏休みに小学生などに昆虫館の職員と一緒に虫とりをしてデータを取得していくことは、非常に分かりやすいので、出来ないかなと思っている。

(事務局)

根拠というのはありませんが、奈良県の南部地域では大規模なショッピングセンターがなく、本市は交通の便も良いので、特に五條、御所など南の方のご利用が非常に多いと想定しています。事業系のごみが横ばいで停滞しているという報告をしましたが、このような形で大規模ショッピングセンターから排出されるごみ量が、減量せずに逆に増加していることが要因としてあげられます。

（事務局）

もう1つご質問にあった昆虫館について、生物多様性に関する研究や、イベントを夏休み期間やっていますが、環境とタイアップしながらの具体的な施策については出来ていないので、ご意見を踏まえて検討していきたいと思います。

（事務局）

隣の大和高田市では、かつては大規模ショッピングセンターが複数ありましたが、今は減ってしまいました。当然、他に購買する場所を求められており、また駐車場に行けば他府県ナンバーがいっぱいいるので、排出される事業系一般廃棄物も増えて影響があると思っています。

（委員）

元タイオンモールの商業圏域は50～60kmだったが、増床したことで80～100kmになり、市外に加えて県外も対象にしている。さらに南側にはまだ開発余地がある。また新駅やアーナの話もあり、事業系一般廃棄物の増加要因は多い。企業側がどうしていくか考えないといけないし、市はどうやって企業を指導していくか今後の考え方を教えてほしい。

（事務局）

イオンと橿原市は連携協定を締結していきまして、廃食用油の回収スポットを設置したり、環境についての啓発パネル展を行ったり、ユニカサプロジェクトと言って忘れ物の傘を工夫して場内の移動に使っていただくなど、環境に優しい取組を市と協力して進められているので、歩調を合わせていきたいと思っています。

（委員）

食品の残渣など、廃棄物を有価物に変える取組を企業側でやっていければ廃棄物も少なくなると思うので、市と協力していきたい。

（委員）

リサイクル率の低下要因として古紙回収の民間業者に流れているということだったが、その量を把握することは今後できるのかどうか。

また民間業者に流れることが、あまり望ましくないのかについて教えてほしい。

（事務局）

難しい点ではありますが、市中の回収業者と連携して回収スポットのサンプルデータを数か所把握することを考えています。

また、民間業者に流れている件については、橿原市がリサイクルするのか、民間業者がリサイクルするのかの違いだけであるので、悪い傾向であるとは思っていません。ただし、デー

タを把握して分析することは今後の課題です。

(委員)

エコライフかしはらという橿原市地球温暖化対策推進協議会を作られていて、市民団体や一般市民が参加して色々啓発活動をやっているが、その一環でエコウォーキングということで、ごみを拾いながら橿原神宮前からクリーンセンターまで歩く活動をして、最後に施設見学もして分かりやすかった。

小学校も中学校も時間がとれない中で、環境を考えるイベント等で、こういう所を見学するのもごみを減らす1つのきっかけになるのではないかなと思うが、どれぐらいの見学者数があるのかを教えて欲しい。

また先ほど温暖化の際に排出係数が上がっている話があったが、例えば排出係数が低い電力へ切り替えたり、非化石証明書を購入するとか、Jクレジットを購入するとか、環境に取り組んでいることのアピールとしてどうか。

(事務局)

橿原市では電力を調達する際に環境に配慮した電力調達指針を定めています。環境にどれほど配慮した電力なのかを点数化した上で、一定の点数を超えた電力しか買わない指針を毎年作成しています。この指針を工夫することで、非化石証書に重きを置いたり、森林に配慮した電力に重きをおいたりというようなコントロールが出来ると思っているので、今後指針を工夫していきたいと思います。

(事務局)

リサイクル館のリユースコーナーで実施している啓発活動では、リユース品の持ち帰り利用者は昨年度 2,652 人となっています。子育てグッズや大人の服、食器などをリユースしています。実際にリユースしてもらうことで、物理的に環境に優しい行動につながります。また最近リニューアルをして、過ごしやすく、また子供を連れて行きやすい環境にしました。今後もリユースを強化していきたいと思います。

(事務局)

クリーンセンターの見学者数は令和 6 年度は 93 人でした。今年度は見学者設備を更新しまして、現時点で 300 人以上は来ていただいています。

(委員)

奈良県地球温暖化防止活動センターでは、環境省の助成金を利用して、電気自動車の試乗会や公共施設の断熱改修のような取組をしている。もし橿原市でもこのような取り組みをされる意向がありましたら、ご一緒出来ればと思っている。

また意見となるが、生物多様性について、ネイチャーポジティブという言葉で使われるが、今後温暖化に伴って植物種や昆虫の層が変わっていくことが考えられる。環境指標の1つとして取り入れるのもよいかと思う。

(委員)

いろいろ身近なところで、生物多様性のことについて触れたり考えたり、何かやったりするような機会ができればいいなと思う。

次第6：確認

事務局より、次回の審議会の予定について、今年度中の開催予定はなく、来年度に開催予定であることを連絡。

次第7：閉会